

県中いわて

令和5年6月1日 / 第259号

●発行／岩手県中学校長会 ●代表／中屋 豊（盛岡市立厨川中学校） ●事務局／〒020-0885 盛岡市紺屋町2-9（盛岡市勤労福祉会館2F）／電話・FAX 019(622)0572 ●ホームページ <https://www.iwate-jh-kochokai.jp/>
●印刷／杜陵高速印刷／電話019(651)2110

共感力を持って、願い、思いを共有し、 「一枚岩」となって取り組む中学校長会を目指して 第61回岩手県中学校長会総会（令和5年4月28日開催）



第61回岩手県中学校長会総会が、4月28日（金）に都南文化会館（キャラホール）で開催されました。昨年に引き続き、半日開催ではありましたが県内各地の会員の皆様に参集いただき開催することができました。

宮古第二中（宮古地区）の三浦政勝校長先生、久慈中（久慈地区）の小橋敏校長先生を議長に選出し、議事を進行していただき、昨年度の活動状況決算状況を確認するとともに、令和5年度の活動方針、新しい組織体制について決議いただきました。総会内容については次のとおりです。

総会次第

- 1 開会のことば
- 2 国歌
- 3 会長代行あいさつ
- 4 来賓祝辞 (1) 岩手県教育委員会教育長
(2) 市町村教育委員会協議会長

- 5 行政説明 (1) 県教委教職員課小中人事課長
(2) 県教委学校教育室義務教育課長
- 6 議長選出
- 7 議事録署名委員委嘱
- 8 報告 (1) 令和4年度会務報告
(2) 令和4年度活動報告
(3) 令和4年度決算報告、監査報告
- 9 議事 (1) 令和4年度収入支出決算の承認
(2) 令和4年度基金歳入歳出決算の承認
(3) 令和5年度活動方針の決定
(4) 令和5年度収入支出予算の決定
(5) 令和5年度役員選出並びに承認
- 10 閉会のことば

※閉会後に、理事・評議員会、各専門部会が開催されました。



執行部



議長



新役員

会長あいさつ（要旨）

岩手県中学校長会 第53代 会長 中屋 豊
(盛岡市立厨川中学校)



本日ここに、県内各地から、会員が一堂に会し、第61回岩手県中学校長会総会を開催できますこと心から感謝申し上げます。

来年度は、第75回全日本中学校長会研究協議会岩手大会が開催されます。今年度は具体的な準備を進める一年となります。ご協力をお願いいたします。

中学校教育においては、学習指導要領の改訂により、「社会に開かれた教育課程」及び「主体的・対話的で深い学び」の実現、「カリキュラム・マネジメント」の確立とともに、国が進めるGIGAスクール構想により、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、一人一人に個別最適な学びや協働的な学びを実現するなど、新しい時代の学校教育である「令和の日本型学校教育」の構築が求められています。加えて、いじめ問題と不登校解決への適時適切な継

続的対応や、復興教育の理念を大切にした東日本大震災の風化防止への取組、中学校教育の大きな変革となる部活動の地域移行の取組も始まろうとしています。

学校における新たな教育課題に対しても果敢に「挑戦」し、校長相互の資質向上と、目的を明確にした活動を推進することにより、学校経営の更なる充実に努めていきたい。何より、そのためには校長である私たちが「共感力」を持った一人一人でありたい。

市町村や各地区はもちろんのこと、県としても、子供たちの美しい未来のために、これまでの校長会の歴史を大切に紡いでいながら、共感力を持って、願い、思いを共有し、「一枚岩」となって取り組む岩手県中学校長会を目指してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

ご祝辞（要旨）

岩手県教育委員会
教育長 佐藤 一 男 様



第61回岩手県中学校長会定期総会の開催にあたり、岩手県教育委員会を代表し、一言お祝いを申し上げます。校長先生方には、各学校の最高責任者として日々学校経営に御尽力いただいていることに対し、心から感謝申し上げます。

県では、「いわて県民計画（2019～2028）」が5年目を迎え、本年度から第2期アクションプランがスタートしました。各学校におかれましては、学校教育指導指針の中に示しております指標を御確認いただき、目標の達成に向けて取組の充実をお願いいたします。

これからの時代は、多様な個人のそれぞれの幸せ

や生きがいの実現に向けた教育が求められており、皆が同じことをできるようにといった「そろえる教育」から、多様性を認めつつ一人ひとりの可能性を引き出す「伸ばす教育」への転換が必要と言われております。各学校におかれましては、子どもたちが本来もっている学びの力を信じて、その力を引き出せる環境を整え、教師は伴走者として子どもの学びを支え、「子どもを主語にした学び」が一層推進されることを期待しております。

今後とも、岩手の子どものための一層の成長のために、御尽力いただくことをお願い申し上げます。あわせて、県中学校長会のみまますの発展を御祈念申し上げます。祝辞といたします。



総務部地区担当者会議



研究調査部地区担当者会議



行財政部地区担当者会議

令和5年度行政説明の概要

教育行政上の課題

教職員課首席経営指導主事兼
小中学校人事課長 熊谷 治久 様



- 1 令和5年度学校教職員定期人事異動について
異動総数1,283名(20.2%)校長昇任82名、副校長昇任67名であった。女性職員の管理職登用拡大が求められている。また、近年、教員採用試験の受験者が減少傾向であるため、出願を電子化等に変更するなど志願者の増加に向けた取組を進めている。
- 2 少人数教育の推進について
(1) 少人数学級においては、本県では小中学校全での学年で35人以下学級が実現している。
(2) 少人数指導においては、個に応じたきめ細かな指導により基礎学力の向上を図っていく。
(3) サポート推進事業においては、各学校が抱える課題の解消に向け、すこやかサポートや学校生活サポートの活用をお願いしたい。
- 3 (暫定)再任用・定年延長等について
令和5年度はこれまでで一番多い536名の暫定再任用の方々があり大きな戦力である。今後、定年引上げ制度の導入による各種制度について理解を深めていただき、適切な対応をお願いしたい。
- 4 人材育成について
公立小中学校管理職等任用候補者選考の受験資格を見直した。副校長、主幹教諭の受験資格の年齢を引き下げる。新採用教諭は138校に配置。県内約1/3以上の学校に配置になっている。「初任者を育てながら、周りの先生方も育つ。職員室全体が活性化する」という雰囲気配置校で醸成してほしい。
- 5 不祥事の未然防止について
令和4年度の懲戒処分件数は前年比3倍以上の増加。小中学校での道路交通法違反は倍増。特に心配するのが飲酒・酒気帯び運転である。各校におけるコンプライアンス研修の実施方法の工夫が求められている。確実な実施をお願いする。
- 6 働き方改革の取組について

校長のマネジメントは、部下職員が働きやすい環境を整え、教職員のやる気と意欲を喚起することにある。岩手の子どもの笑顔と、その子どもたちに関わる先生方が元気になるよう、課題の克服に向けて、ともに力を合わせ、取り組んでまいりたい。

指導行政上の課題

学校教育室首席指導主事兼
義務教育課長 武藤美由紀 様



- 1 いわて県民計画(2019~2028)第2期アクションプランに基づく教育施策の推進について
第2期アクションプランでは、学校の取組としての指標の設定と改善が図られた。また、質的な向上をねらって、積極肯定回答した学校の割合を指標に掲げている項目が複数位置付いている。指針で確認をお願いしたい。
- 2 資質・能力ベースの子供主体の学習の実現
子供たちの学びについては、資質・能力で整理された学習指導要領及び令和3年答申「令和の日本型学校教育」の趣旨の実現に向けた授業改善を通して、引き続き子供主体の学習が着実に実現されていくことが重要である。授業改善は教師の永遠の命題である。子供の学びの保障のための教師の授業改善と学校経営の充実が資質・能力に資することができるよう、教育課程協議会等を通して、「一人一人の子供を主語にする学びの実現」を図ってまいりたい。
- 3 一人一台端末を活用した学び(令和の学びのスタンダード)の一層の充実について
(1) リーディングDXスクール事業という国事業を活用し、指導法や指導技術の創出とそのモデル化を図り、好事例を県内全域に展開していく。
(2) 各学校におけるICT活用の促進を図るため、今年度の学校教育指導指針に情報活用能力体系表例及び教科指導等におけるICT活用として資料掲載の形で示している。総合教育センター作成の情報活用能力体系表例は、学習内容を3つの資質・能力に整理し、小学校低中高、中学校と系統性をふまえた情報活用能力を具体的に示し、実際に端末を子供たちが使いながら、適切に情報活用能力を獲得することができることを目指していく。また、「個別最適な学び」の実現に寄与する端末の持ち帰りについても積極的に推進願いたい。
- 4 適切な部活動体制の推進について
昨年12月、国のガイドライン策定を受け、「岩手県における部活動の在り方に関する方針(改定版)」の全面的な改定を進めるところである。先行して地域クラブ活動への移行を進める市町村向けには、想定される業務や手続きをまとめた「手引き」を先月に作成した。市町村において、生徒の多様なニーズに応じた活動機会の保障と、教員の働き方改革の推進の両立に向けて活用していただき、地域の実情に合わせた内容に読み替えるなど、持続可能な活動等に向けて取り組んでもらいたい。

第1回専門部地区担当者会議の報告

研究調査部

会議では、議長に山根孝弘氏(岩手地区・葛巻中)を選出、記録者に佐々木淳一氏(花巻地区・宮野目中)を委嘱し、経過報告のあと、今年度の運営計画案、2つの調査研究、各種研究大会への対応等について協議・確認を行いました。

調査研究については、調査1「進路指導推進状況調査」及び調査2「教育課程編成実施状況調査」について、今年度の調査項目と留意事項を確認しました。各学校の学校経営等の改善に資するため、「調査1」は5月、「調査2」は10月に実施することとしました。調査結果の分析・考察は、幹事の藤村健一氏(盛岡地区・見前中)、山根孝弘氏(岩手地区・葛巻中)、角谷隆章氏(紫波地区・紫波三中)、星和子氏(岩大附属中)のご協力を得ながら、年4回の幹事会を開催して行います。

各地区の研究については、総会要項の「研究の手引き」を参照し、発表等の年次計画をふまえて推進することを確認しました。

<研究調査担当理事 泉澤 毅>

行財政部

会議では、議長に大越淳氏(宮古地区・川井中)を選出し、記録者に村上淳氏(久慈地区・中野中)を委嘱して、今年度の運営方針と事業計画について協議しました。

協議では、行財政調査の内容と進め方について意見交換を行い、事業推進日程を確認しました。内容については修正・変更の意見はありませんでした。

その後、幹事に佐藤滋氏(盛岡地区・渋民中)、寺澤幸昌氏(岩手地区・西根中)、内川千亜希氏(紫波地区・紫波二中)を選出しました。

今後、幹事会で内容を確認したうえで調査を実施し、調査後の結果の集約・分析等を進めていくこととし、了承を得ました。

行財政の調査は、7月中旬依頼~8月下旬地区締切の予定で、電子メールを活用して実施します。会員の皆様のご協力をお願いいたします。

<行財政担当理事 丸橋 友之>

生徒指導部

会議では、議長に馬場美輝彦氏(和賀地区・和賀東中)が選出され、記録者には高橋広明氏(胆江地区・金ケ崎中)を委嘱して今年度の運営方針と事業計画について協議の上、確認しました。

生徒指導部の主要事業である「生徒指導の諸課題にかかる調査」は令和4年度分を対象期間として調査を実施します。

なお、この調査項目については、見直しを図ってほしいとの声もあり、今後地区担当者にもご協力をいただき、検討及び協議を進める予定です。また、本調査一式については、6月初旬を目処に各地区の生徒指導部担当者を通じて電子媒体にて送信する予定です。お忙しいところ恐縮ですが、各校の校長先生方にはご協力をお願いいたします。

また、集計された調査項目の分析や考察等については、幹事の米俣司氏(盛岡地区・見前南中)高橋眞喜子氏(岩手地区・安代中)照井英輝氏(紫波地区・紫波一中)のご協力を得ながら進めさせていただきます。

その後、調査結果については9月中にまとめ、各校にお届けする予定です。

<生徒指導担当理事 佐々木秀毅>

広報部

会議では、議長に三浦仁氏(一関地区・一関東中)を選出、記録者に遠山秀樹氏(気仙地区・世田米中)を委嘱して、今年度の運営方針と運営計画について協議するとともに、会報等における各地区への原稿執筆分担等を確認しました。

協議・確認された広報部の主な事業は、会報「県中いわて」の年3回の発行と、会誌「岩手県中学校長会会誌第35号」の発行及びホームページの内容の更新を行ってまいります。会報は令和4年度より年3回の発行になりました。一つの号のページを増やすことで、4回発行の内容を掲載することとしました。また会報の執筆分担等については、新入会員の地区における人数や過去の寄稿状況等を考慮し、各地区への原稿執筆を依頼しました。

広報部を通じて、情報共有を行い、会員相互のつながりが図られるよう努めてまいります。皆様のご協力をお願いいたします。

<広報担当理事 久慈 孝>

退会者代表あいさつ

新たなステージに挑む学校

前岩手県中学校長会長
佐野 理



令和5年4月28日に第61回岩手県中学校長会総会が盛岡市都南文化会館を会場に開催され、中屋 豊新会長のもと34名の新会員を迎え、令和5年度岩手県中学校長会がスタートされましたことに、心からお慶び申し上げます。また、これまでに会員の皆様をはじめ多くの皆様からいただきましたご支援ご協力に対しまして、本年3月末をもって退会した29名を代表し、厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。

さて、昨年度の県中学校長会は、141名の会員が一堂に会し、第60回総会を開催し、スタートすることができました。新型コロナウイルス感染症拡大の収束が見通せない中、校長の迅速かつ確かな判断のもと様々な教育活動を展開し、新しい学校像のあり方を模索した1年でありました。加えて、本会の事業等も着実に進んで参りました。6月23日には、第72回東北地区中学校長会研究協議会宮城大会がハイブリット形式にて3年ぶりに開催されました。また、10月7日には、第58回岩手県小中学校長研究大会釜石大会が釜石市民ホールを主会場に、全県の会員の皆様が参集して開催できたことは大きな喜びでありました。お互いに顔を合わせて、研究発表をもとに協議できたことは、校長同士のつながりを深める貴重な機会となりました。会の開催にあたり、精力的に取り組んでいただいた釜石地区校長会の皆様、分科会発表担当地区の校長会の皆様にあらためて深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

今年度は、感染症拡大防止への対応が新たなステージに入り中学校教育も大きな転換期を迎える年となります。このような中、県中学校長会が果たすべき役割は益々重要になると考えます。今後も、県、各地区中学校長会が一枚岩となり、各校長が自信をもって新時代を創造する学校像を追い求めることを切に願っております。微力ではありますが、退会者一同、校長先生方のお役にたてればと考えております。

結びに、岩手県中学校長会の益々の発展と飛躍をご期待申し上げ、退会者代表の挨拶といたします。

私の学校経営

思いやりの心を育てること ～東京ディズニーランドの青年から～

気仙地区 伊東 孝志 (高田東中)



ある日、東京ディズニーランドに若い夫婦が訪れ、「お子様ランチ」を注文した。対応したアルバイトの青年は戸惑った。マニュアルでは子どもを連れていない夫婦にはお断りをする事になっている。「恐れ入りますが、大人の方には、・・・」と言おうとしたが、思いとどまり「どなたが食べられるのですか？」と尋ねた。すると、奥さんがうつむきかげんに、「死んだ子どものために、注文したくて・・・」「私たち夫婦には、なかなか子供が授かりませんでした。ずっと願ひ続け、やっと娘が生まれましたが、体が弱く、一歳の誕生日を待たずに亡くなってしまいました。今日は、その子の命日なのです・・・」「そうだったのですか」「子どもが大きくなったら親子3人で東京ディズニーランドへ行こうと楽しみにしていました。とうとう実現しませんでした。一周忌の今日、せめて私たちの心の中に生きている娘をディズニーランドに連れて行ってやりたいと思ったのです。本当に娘が生きていたら、ここで一緒にお子様ランチを食べたんだな、と思うとつい注文したくなって・・・」

青年は笑顔に戻っていた。「お子様ランチのご注文を承りました。ご家族の皆様、どうぞ、こちらへ」と言って2人用のテーブルから4人がけのテーブルへ移動してもらい、子供用の椅子まで用意した。この心遣いに感動した夫婦は、涙を流しながらお子様ランチを食べたという。そして帰宅してから、この青年にお礼の手紙を書いている。

私は、教育で一番大切なことは何かと問われれば「思いやりの心を育てること」と考えてこれまで指導してきました。学力向上も大切、体力向上も大切ですが、思いやりの心を育ててこそ、それらの力が人ために役立ち、助け合いに満ちた豊かな世の中が実現します。たとえわずかの学力、わずかの体力しなくても、思いやりの心さえあれば必ず人の役に立つ人間になる。そう考えています。

新任校長の抱負

挑戦！生徒のための 学校経営

花巻地区 帷子 誠 (湯口中)



本校は、花巻市の西部、花巻南温泉峡の玄関口に位置する学校です。旧湯口中と前田中が統合し、現在の花巻市立湯口中中学校が発足し今年で55年目となります。

生徒数95名、学級数5の小規模校ですが、本校には「ブランド」として誇れる取り組みが三つあります。一つは「挨拶」です。生活委員会を中心とした朝の挨拶運動は、本校の挨拶の基本をつくる活動で、先輩から後輩にしっかりと受け継がれ、学校の明るく爽やかな雰囲気をつくっています。二つは「合同トレーニング」です。朝の時間、多くの学校が朝学習に取り組むところ、本校では校庭に集合し、リーダーの指示で整列、礼、体操の後に全員が5分間走する取り組みです。一汗かいてから朝の会、授業に臨むのですが、朝のランニングには脳を活性化させる効果があるとも言われ、「合トレ」は理にかなった取り組みと言えます。三つは「神楽(シンガク)」です。昭和45年から本校の集団演技として取り組み、式典や行事など、半世紀に渡って伝統の舞として受け継がれております。一昨年は、第21回全国中学校総合文化祭岩手大会において舞台発表し、高い評価をいただきました。

また、湯口地区は「地域の子は地域で育てる」という熱意から、中学校区の堅固な教育振興運動、他には例を見ない体育・文化後援会も組織されるなど、地域全体で子どもを応援しようという意欲に満ちた地域の方々を支えられており、生徒の健全育成につながる強みもっています。

私は、このような恵まれた環境の中で教育活動を進められることに感謝し、生徒にとって学びがいのある学校として、先生方にとって働きがいのある学校として、地域にとって信頼される学校として、学校基本目標である「気概にあふれ、主体的に考え行動する生徒の育成」に、職員が一丸となって取り組んでいけるよう工夫創造して参ります。どうぞよろしく願いいたします。

新任校長の抱負

「衣川中の校長として」

胆江地区 八重畑 亘 (衣川中)



本校のある衣川は奥州市の最南端にあり、南部は一関市・平泉町に接し西部は奥羽山脈に囲まれており総面積の80%近くが山林である、緑が美しい、新鮮な空気が気持ち良い地域です。地域内には小学校が2校あり、2校から進学するのが衣川中学校で、令和5年度の生徒数は75名の小規模校です。衣川中の校歌の冒頭にある「山脈奥羽のふところに抱かれて育つ高原の子らよ」の通り、大らかで心豊かな生徒たちが、明るく何事にも誠実に協力して学校生活を送っており、生徒会活動として合唱やボランティアに積極的に取り組んでいます。着任して1か月半になりますが、子どもの活動が目前にある学校現場の素晴らしさを改めて感じる毎日です。朝、生徒会取組の合唱練習を見に行くというリーダーを中心に真剣に取り組む生徒達があります。授業を参観しに行くという特別支援学級のある男子生徒が必ず大きな声で挨拶し歓迎してくれます。体育祭練習では、創作応援やソーラン節など、練習開始時の姿からは想像もできない程のよく揃った動きを見て、そこに至る個々の頑張りや集団としての力に感動させられました。生徒達の力は本当に素晴らしく、そして、私がそこから貰う力は本当にすごいです。そのような生徒達のため、衣川中の校長として今、自分が努めていくことを2つ考えました。一つは生徒達に直接関わる先生方が、教諭という仕事にやりがいを感じ、笑顔で生徒達の前に立てるようにすること。そしてもう一つは子供たちの持てる力をより磨くことができるのは、学校であり、家庭であり、地域であり、校長として、その3者が連携・協力していけるようにすることです。

まだまだ力不足ですが、衣川中学校の生徒一人一人の可能性を信じ、生徒達の学校生活が充実したものとなるよう、そして、生徒達が力強く未来に羽ばたいていけるよう、精一杯、努めていきたいと思っております。

新任校長の抱負

地域と共にある
宮古西中学校

宮古地区 一ノ倉眞吾 (宮古西中)



久慈市立三崎中学校から宮古市立宮古西中学校に新任校長として着任しました一ノ倉と申します。よろしくお願いたします。

始業式・入学式の自分の練習をしようと思い、こっそり体育館に行ったときのことで。ステージを見てかなり驚きました。それは、ステージが広いということです。どのくらい広いかというと、体育館をA4縦置き用の紙に例えると、縦の側にステージが広がっていました。その全長は20m弱。端から上がって中央まで10m。それだけで式辞をうまくこなすことができるだろうかと不安が高まりました。後から先生方になぜこんなにステージが広いのかを聞いたところ、宮古西中学校は歌舞劇という演劇に力を入れており、そのための大きなステージではないかということでした。確かに地域の方々とお会いすると「西中は歌舞劇がいいんだよ」というお話をほとんどのの方々からいただきます。歌舞劇は、生徒と先生方だけの取り組みではなく、地域推進員の方が地域に声掛けをし、地域の方に太鼓を教わるなど、地域みんなで歌舞劇に取り組んでいるとのことでした。また、ボランティアでお花を生けに来てくださる方、朝読書の時間に読み聞かせに来てくださっている方々など、西中学校にはたくさんの地域の方々が入り出しています。近年、学校運営協議会やコミュニティースクールの取り組みが始めておりますが、宮古西中学校はずっと以前からその取り組みがなされているということも、地域の方々から宮古西中学校を自慢する姿を見てとても強く感じました。私は、先生方や地域の方々と一緒に子供たちが笑顔で登校し、笑顔で下校できるような、そしてそれが毎日続くような学校を作っていきたいと改めて感じました。

わからないことだらけで校長会の皆様にはアドバイスをいただくことが多々あると思います。よろしくお願いたします。

新任校長の抱負

終身の計、人を
樹うるにしくはなし

久慈地区 畠山 和彦 (宇部中)



本校は、久慈市の南部、野田村との境近くに位置し、校歌にも歌われる宇部川の恵みを受けた自然豊かな環境にあります。その落ち着いた環境で生徒27名がお互いを支えあい高めあいながら学校生活を送っています。また、地域の協力がとても大きいことが本校の特徴です。先日も大勢の地域の方々がボランティアで校地整備にご協力してくださいました。

私は平成30年度から令和2年度までの3年間、本校の副校長でした。転出してきた学校に校長として再赴任したことになります。勝手知ったる自分の庭くらの感覚で勢い込んで着任しましたが、すぐに「校長室の孤独」にやられてしまいました。隣の職員室から先生方の笑い声が聞こえると、とても寂しい気持ちになり、今まで以上に自分が生徒や同僚に支えられて生きてきたのかを痛感しました。

そんな私の心を奮い立たせたのは、運動会取り組み中の生徒たちの声でした。生徒のそばに歩み寄り、そこには懸命に行事に取り組む生徒たちと、それを全力で支えようとする真摯な教職員の姿がありました。はっと我に返り、「ああ私はこの人々たちを引っ張っていく仕事を任せられたのだな」と今更ながら校長としての責務の大きさに気づいた4月でした。今日も、とても生徒27人の声とは思えないような大きな声の応援練習が、校長室に響いてきます。今、目の前にいる生徒をいかに磨くかを職員とともに考え、日々実践を積み重ねていく所存です。

校長として、やらなければならないこと、やりたいことは沢山ありますが、自分の理念をいかにして具体的手法とともに職員に伝えるのかに苦心している毎日です。しかし、道は1つで「丁寧に根気強くやっていく」ほかありません。着任からひと月が経つ頃、5月の太陽に照らされキラキラと輝く生徒たちを見ていると、私自身が応援されているかのように感じられるようになりました。1人きりの校長室で原稿を書きながら、生徒・職員のために働く決意を新たにしました。校長室のドアは開いています。

令和4年度末退会者

No.	地区	学校名	氏名
1	盛岡	盛岡市立上田中学校	佐野 理
2	盛岡	盛岡市立仙北中学校	菅井 雅之
3	盛岡	盛岡市立河南中学校	村田 和代
4	盛岡	盛岡市立乙部中学校	石川 健
5	盛岡	盛岡市立巻堀中学校	西郷 晃
6	岩手	岩手町立一方井中学校	松本 隆
7	岩手	八幡平市立西根第一中学校	高橋 徹
8	岩手	八幡平市立松尾中学校	石積 康弘
9	岩手	滝沢市立柳沢中学校	山本 一平
10	紫波	紫波町立紫波第三中学校	佐藤 智一
11	花巻	花巻市立大迫中学校	菅原 俊博
12	花巻	花巻市立東和中学校	阿部 久幸
13	和賀	北上市立北上中学校	高橋 邦尚
14	和賀	北上市立飯豊中学校	土井 祐之
15	和賀	北上市立南中学校	盛島 徹
16	和賀	北上市立和賀西中学校	渡邊 工
17	胆江	奥州市立水沢南中学校	佐々木 教博
18	胆江	奥州市立衣川中学校	菊地 榮壽
19	一関	一関市立桜町中学校	北村 正俊
20	一関	一関市立花泉中学校	奥田 昌夫
21	一関	一関市立東山中学校	佐藤 勉
22	一関	一関市立千厩中学校	箱山 智美
23	気仙	住田町立世田米中学校	及川 賢一
24	釜石	釜石市立大平中学校	蛸島 茂雄
25	釜石	釜石市立甲子中学校	柏館 秀一
26	宮古	宮古市立第一中学校	菊地 裕
27	宮古	宮古市立宮古西中学校	大久保 士郎
28	久慈	久慈市立待浜中学校	天間 保幸
29	久慈	洋野町立大野中学校	南 隆人

令和5年度 新 会 員

No.	地区	学校名	氏名	前所属職
1	盛岡	巻堀	佐々木 竜也	平山小学校校長
2	盛岡	岩大附	星 和子	川井小学校校長
3	岩手	川口	三田地 優	花巻北中学校副校長
4	岩手	葛巻	山根 孝弘	矢巾北中学校副校長
5	岩手	西根一	千田 昭宏	梁川小学校校長
6	岩手	松尾	立柳 容子	一戸小学校校長
7	岩手	柳沢中	及川 博文	長興寺小学校校長
8	紫波	紫波二	内川 千亜希	滝沢市教委学校教育指導課参事兼課長
9	紫波	紫波三	角谷 隆章	山形小学校校長
10	花巻	湯口	帷子 誠	県教委教職員課主任経営指導主事
11	花巻	宮野目	佐々木 淳一	遠野市教委学校教育課長
12	花巻	大迫	小田島 圭	鎌ヶ崎小学校校長
13	遠野	遠野西	菊池 一洋	県立生涯学習推進センター生涯学習部長
14	和賀	和賀西	藤原 誠彦	花巻中学校副校長
15	胆江	水沢南	千田 裕子	和賀東小学校校長
16	胆江	衣川	八重畑 亘	花巻市教委学務管理課長
17	一関	萩荘	村上 正和	東水沢中学校副校長
18	一関	花泉	佐藤 拓史	小久慈小学校校長
19	一関	東山	藤原 洋	一方井中学校副校長
20	一関	室根	菅原 幸喜	高田一中学校副校長
21	気仙	末崎	佐々木 伸一	松尾中学校副校長
22	気仙	世田米	遠山 秀樹	県教委学校教育室首席指導主事兼学力向上担当課長
23	気仙	有住	村松 正博	水沢南中学校副校長
24	釜石	大平	高橋 信昌	紫波一中学校副校長
25	宮古	河南	田畑 周哉	沿岸南部教育事務所教務課長兼主任経営指導主事
26	宮古	宮古西	一ノ倉 眞吾	三崎中学校副校長
27	宮古	津軽石	平野 智史	鶴住居小学校副校長
28	宮古	重茂	安保 学	角浜小学校副校長
29	宮古	山田	八幡 一臣	種市中学校副校長
30	宮古	小本	多田 義孝	久慈中学校副校長
31	久慈	待浜	佐藤 光	黒石野中学校副校長
32	久慈	宇部	畠山 和彦	宮古河南中学校副校長
33	久慈	三崎	中軽米 央子	乙部中学校副校長
34	久慈	野田	菊池 勉	沢内中学校副校長